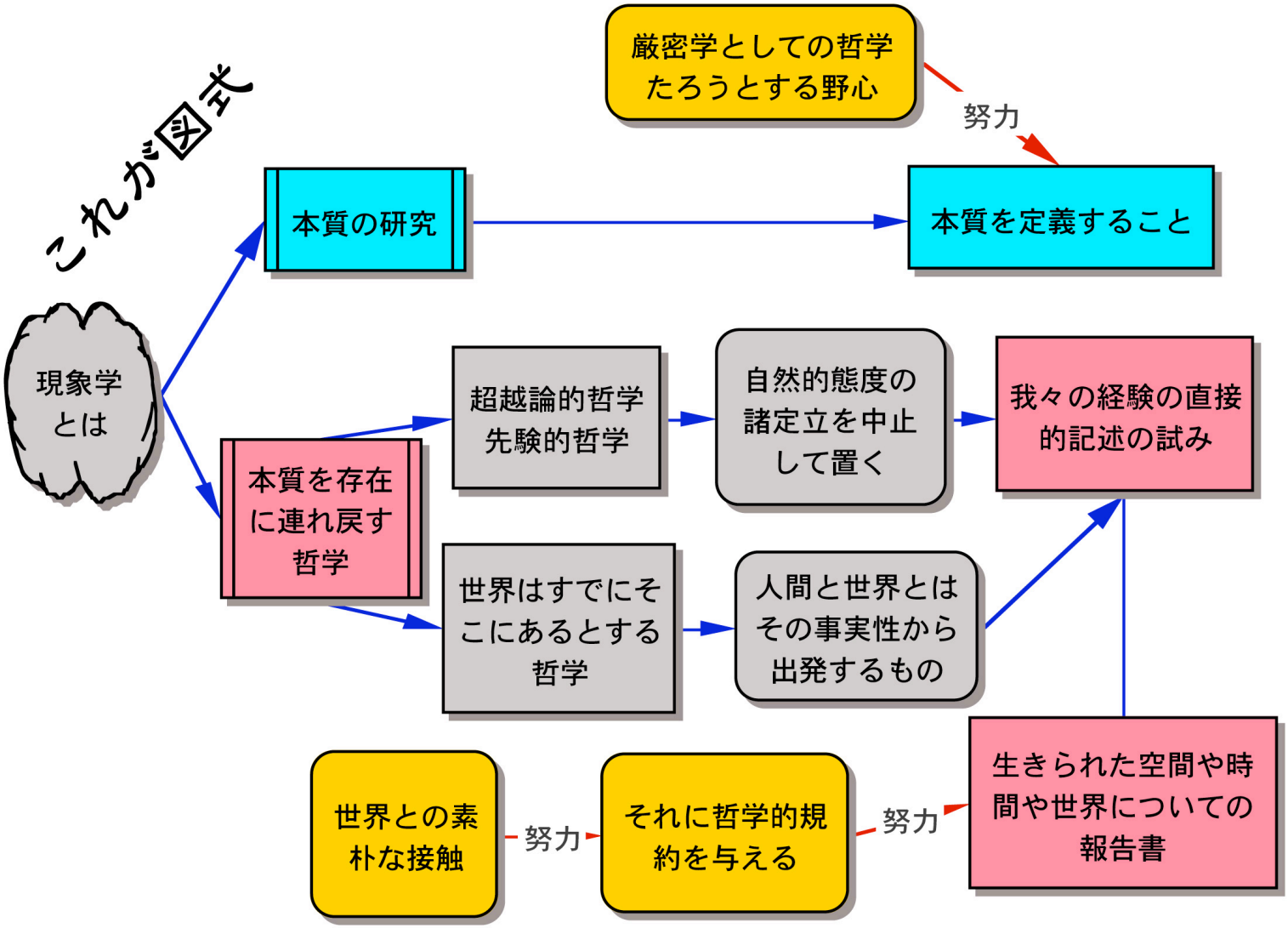
文章を
図式化する

これが文章

現象学とは何か。フッサールの最初期の諸著作から半世紀も経ってなおこんな問いを発せねばならぬとは、いかにも奇妙なことに思えるかもしれない。それにもかかわらず、この問いはまだまだ解決からはほど遠いのだ。現象学とは本質の研
究であって、一切の問題は、現象学によれば、結局は本質を定義することに帰着する。例えば、知覚の本質とか、意識の本質とか、といった具合である。ところが現象学とは、また同時に、本質を存在へとつれ戻す哲学でもあり、人間と世界とはその＜事実性＞から出発するのでなければ了解できないものだ、と考える哲学でもある。それは一方では、人間と世界とを了解するために自然的態度の諸定立を中止して置くよう
な超越論的、先験的哲学であるが、しかし、また他方では世界は反省以前に、廃棄できない現前としていつも＜すでにそこに＞在るとする哲学でもあり、その努力の一切は、世界とのあの素朴な接触をとり戻すことによって、最後にそれに一つの哲学的規約をあたえよう
とするものである。それは、一方では一つの＜厳密学＞としての哲学たろうとする野心でもあるが、しかしまた、他方では、＜生きられた＞空間や時間や世界についての一つの報告書でもある。一方では、それは現に在るままでのわれわれの経験の直接的記述の試みであって、その経験の心理的発生過程とか、自然科学者や歴史家または社会学者がこの経験について提供し得る因果論的説明とかにたいしては、何の顧慮も払わないものだ。

これが図式